

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493200131	事業の開始年月日	平成20年4月1日
		指定年月日	R2年4月1日
法人名	(株) エイジサービス		
事業所名	グループホームあさひ別荘		
所在地	(241-0025) 神奈川県横浜市旭区四季美台68-45		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍の中でもホーム内で行える行事等を毎月職員と話し合いながら「楽しみ」が少しでも増えるようにレク等に力を入れています。
又、ご家族様・ご入居者様から「ここに入居して良かった」と思ってもらえるように日々職員同士連携を取りながら毎日の生活の中で事故のないように見守りを強化しています。
職員も入居者様と会話の中で情報をいただきながら「楽しみ」の増える工夫を考え笑顔も絶えずホーム内をいつも元気に溢れております。入居者様の現在の体調を維持出来るように、個々に出来ることを大事にしながら支援しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月7日	評価機関 評価決定日	令和4年4月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「二俣川」駅、徒歩18分のバス通りから一步離れた清閑な住宅街の一角にあり、近くには小さな児童公園の四季美台第二公園があります。建物は南向きの明るい煉瓦模様の瀟洒な二階建の建物です。玄関前の道路脇には町内会の掲示板があり施設情報の発信の役割も果たしています。

<優れている点>

利用者・職員が「楽しく笑顔を絶やさない・笑顔溢れるホームを目標に」を基本に毎日を過ごせる働きかけを大切にしています。「自立支援」を、大切なその人らしさを生み出す働きと考へ、職員が率先して笑顔で「自己決定」を促しています。毎日の入浴、服薬、見守りを確認する役割を決めた当番表を作成し支援をしています。

<工夫点>

職員間の連携を図り、日々変化する体調を把握し、身近な見守りが出来る体制をもとに職員、看護師、医師との医療連携により指導、助言の機会をつくっています。職員の笑顔が利用者に届くよう、冗談を交えて日常の働きかけをしています。自立支援として、食事の前準備などに積極的に参加できる機会をつくっています。一年の行事に合わせた「昼食ごちそう日」や「誕生日会」などを開催して季節感を大切にしながら、日々の生活を楽しむ機会づくりとしています。ユニット会議での研修や身体拘束等、虐待防止に向けて定期的にアンケート調査を行い、防止に向けての意識向上に努めています。「オンライン面会」も実施しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあさひ別荘
ユニット名	つる

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームとしての目標を定め、思いやりを持って実践に努めている。新人研修の中でも会社の理念・ホームの目標についての説明をしている。	事業所の目的「自立支援」「その人らしさ」で笑顔溢れるホーム作りを目指して日々実践しています。法人理念「世のため、人のため、入居者、ご家族、職員の満足度を追求する」は機会があるたびに、職員で話し合い周知に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議や知り得た地域行事などへ積極的に参加すると共に、散歩時など挨拶や会話を通して地域の方々との交流をはかっている。	日常の散歩時や近所への買い物同行の中で楽しみながら挨拶や会話を交わしています。コロナ禍の前は地域の行事にも参加をしています。地域の幼稚園を招待した高齢者懇談会の計画もしましたがコロナ禍の中で実現は出来ませんでした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症については内部研修等で勉強をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今現在は運営推進会議は書面開催でご家族様に書面で送り、意見や要望等を聞く機会を作りサービスの向上に努めている	隔月で書面による運営推進会議を開催しています。事業所の目標、その具体的な取組み、活動報告、健康管理、ヒヤリハットや地域への情報提供などの様子を家族、推進委員に書面で報告をしています。時折、お礼の電話も貰っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者とは、運営推進会議のほか、各種情報の入手につとめ講習会等へ参加することで協力関係を築きサービスの向上を図っている。	現在は主に法人を通じて情報を得ています。横浜市委託の感染予防業者から感染予防対策に対して「良い」の評価を受けています。今後、運営推進会議を再開して各種情報交換の機会も計画しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	内部研修にて身体拘束について職員に学ぶ機会を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、一般家庭同様 外部からは施錠されているが、内側からは誰でも開けられる状態となっている。	身体拘束等廃止委員会は3ヶ月に1度、開催しています。ユニット会議では研修だけでなく、3ヶ月に1度、職員アンケートを活用して自らの振り返りを兼ねて身体拘束防止の啓蒙に努めています。書面による研修も実施しています。玄関の施錠は内部からは自由に開錠が出来るように設置しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について内部研修を行い、何気ない言葉や支援が虐待に繋がる可能性がある事を職員間で共有し、防止に努めている。	3ヶ月に1度職員アンケートを行い、啓蒙と発生の防止に努めています。職員の表情から疲れを感じた時や、様子など見受けられた時には、すぐ話し合いの機会を持ち「心のケア」に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度についてユニット会議で内部研修を行い学べる機会を取り入れ各種研修会で得た日常生活自立支援事業を紹介し活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては本部にて時間をかけ説明している。契約前には、実際にホームでの実情を見学して頂き、不安や疑問等あった時も応対し納得して頂ける様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所した際に、努めてホーム長を始め職員との会話の機会を作り意見や要望を得るようにしている。また、意見箱を設置し努力している。	コロナ禍により、家族会や行事を行うことは難しい状態ですが、リモート面会を実施しています。「あさひ別荘入居者だより」を毎月発行しています。利用者の生活の様子の写真も載せて伝えることで、家族からも喜ばれています。今後の家族が参加できる機会を計画しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勤務形態、不安、要望等は管理者や代表にいつでも直接相談できる環境が出来ている。	毎日の利用者との交わりの中で出て来た要望やアイデア、気づきなどをユニット会議で話し合います。意見や情報共有の機会とし、支援計画の見直しへ繋げています。困った事があれば管理者や施設代表者と直接話し合う場も設けています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表も勤務表を確認しており、個々の労働形態（時間）に注意を払っている。管理者は、職員の生活背景等を考慮し、職員の希望を第一に勤務体制を整えている。	職員と話し合い、個々の希望を大切にしたい勤務体制づくりに心がけています。休息時間の設定、場所の確保やサービス残業が起きないようにメリハリの付けた勤務指導をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一年間の研修計画を作成しそれに元ずき研修を行い、職員からの要望も取り入れ、ユニット会議時に内部研修を行い、技術面に於いては個別で指導をしている。	月一回開催の研修計画を立案していますがコロナ禍の中で思うようには進んでいません。その中でも毎月行うユニット会議などのミーティングの機会を利用して介護技術などのスキルアップを積極的に取り組んでいます。	年間の研修計画を立て、実施に努めていますが公的資格などの取得に向けて、計画的な職員育成の機会をさらに創ることが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の法人との交換研修に参加し交流をもちGHの行事などにも参加したり交流出来る機会を多く持てる様にし、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	基本情報を元に、サービスを開始する際に直接会話する機会を作り、要望に耳を傾け、職員同士情報を共有し安心して生活が送れる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスを開始する際、家族にこれまでの生活歴を伺い、家族の不安や要望に耳を傾け、良好な関係づくりが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応においては、安心安全を確保した上で、必要とされる最初の大切な支援を見極め、順を追って全体のサービスが行き渡るように努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は本人との日々の生活の中で信頼関係を築く事に重点を置き、その信頼関係の下で介護を行うように努力をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、本人の状態について家族と連絡を密にし、職員と共に本人を支える協力をしてもらっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で行動の制限はあるが、家族や親戚とオンライン面会や友人との手紙交換などの支援をしている。	本人の希望を毎日の会話の中から拾い出して情報として共有しています。 「年賀はがき」のやり取りの継続支援やオンライン面会の設定を通じて関係継続を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格に合わせリビング席を配置し本人同士が関わり合えるよう努めている。また、座ったままでも皆が参加出来る活動を提案し和気あいあいと過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設や病院などに移られた家族や相手先とも連絡を取り、その後の様子を伺い、必要に応じて支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の生活パターンを把握しながら支援している。職員は、本人の立場に立ち、ケアについて話し合い、必要に応じて家族に相談し、その都度対応を変えながら本人にあった対応が見つけられるよう努めている。	職員は毎日の「冗談や世間話」の時間を大切な思いや意向の表現の機会と捉え、その話を笑顔で共有することに努めています。連絡ノートやカンファレンスを通じて一人ひとりの「おもい」の把握と時々に変化する対応の在り方を話し合い、支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様一人一人の生活歴を知り生活環境が変わっても戸惑う事なく日常生活が送れる様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の出来る事・出来ない事を把握し無理のない様に家事に参加して頂き、その人にあった一日の過ごし方を考えながら対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議やショートカンファを行い、各職員からの意見やアイデアをもとに本人の現状に即した介護計画を作成している。	入居前に本人や家族から聞き取りを行い、医療関係者の意見も含めて介護計画を作成しています。入居後は、モニタリングと本人との会話や仕草から計画を確認して、必要に応じて本人、家族、職員、医師の意見も含めて見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に職員との会話や本人が話した内容等を記録し、職員同士情報の共有ができる様に努めている。又申し送りノートを使用し周知の徹底を心がけ何か気づきがあった時はケアマネに報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々変化する入居者の体調を把握しご家族との連携を密にしケアプランの変更を行い、早急な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問美容の利用や中学校の実習先として交流を深めたり消防員を加えた消防訓練を行ったりなど、入居者が安全に暮らせるように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医、外部受診を希望される場合には、訪問診療医と連携をとり本人にとって適切な医療が受けられるよう支援している。	内科医、歯科医は月2回の往診をユニットを交互に来ています。訪問看護は毎週火曜日に来訪しています。急変時の対応体制も整えています。入居前からのかかりつけ医を継続する事も可能ですが、現在、利用者は事業所協力医療機関を選択しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一回訪問看護がありそれまでに一週間分の訪問看護の用紙に入居者様の様子や経過を記入、訪問診療も月に二回あり看護と合わせて助言や指導をして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様には、日頃から体調変化等があった場合は連絡を密にしホームとご家族様、医療機関と連絡を行い連携して対応している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時「看取りに関する同意書」を説明、重度化した時はホームとご家族様と詳しい説明を行い、新たに「看取りに関して」の同意書を作成している。	重度化や看取りの際は、本人や家族の要望や、訪問医・施設長・ケアマネジャーとの話し合いの中で対応し、同意書を新たに作成し、共有しています。現在も看取りをしています。先輩職員を中心に研修を行いながら、家族が最後まで寄り添えるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網を作成、24時間ドクターコールあり、ドクターより指示を頂きその時の状態に於おじた対応をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を実施している。入居者様にも毎日避難訓練を兼ねて階段昇降をし下肢筋力低下につながらない様に工夫をしている。又避難訓練時は、地域の方の参加の声掛けをしている。	年に2回、日中と夜間想定を含めて防災・避難訓練を行っています。コロナ禍の現在は地域住民の参加は行わず、職員が地域住民の代わりとし実施しています。毎日、体操の後に階段昇降を行い、車いすの人は座った状態で足踏みをするなど下肢筋力低下予防に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報を含む書類は施錠し管理している。敬う気持ちを念頭に、一人一人の性格や思いに合った声掛けを行っている。浴室は個々に対応しており、その他の	利用者に対しては名前に「さん」付けて呼んでいます。トイレ誘導時の声掛けや入浴時の言葉遣いに留意しています。特に失禁時などは、周囲の人や本人の自尊心に配慮し対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中でご本人が選択できることについては、声掛けを行い選択して頂き、又自己決定が行えるように声掛けの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホーム側から提案する日課以外にも、持参された植木の手入れや読書、模写、編み物等 本人が好きな時間に趣味活動が出来るよう、一人一人の気持ちを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容があり、希望者は髪染めもしています。毎朝の着替えについては、選べる方は自身で選んで頂き、洗顔後愛用の基礎化粧品等で整えられるよう支援している。介助が必要な方にも洗面後 保湿を行い、心地よく生活が送れるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が終了した後、口腔担当の職員が一人一人口腔内をチェックし仕上げ磨きや歯茎のチェックをしている	利用者持参の馴染みのある茶碗や椀、箸などの食器を使用しています。苦手な食材には他の食材に変更するなど柔軟に対応しています。栄養管理士指導のもとで職員が手作りし提供しています。利用者はテーブル拭きや盛り付け配膳を一緒に行っています。毎月の「食レクリエーション」は楽しみの一つになっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスについては、外部委託している栄養士のもと管理を行っている。また、体重や検査結果から医師より助言を頂き本人の身体に合った水分量や食事量を把握し支援しています。嗜好品については、家族に適切な量を持参して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事が終了した後、口腔担当の職員が一人一人口腔内をチェックし仕上げ磨きや歯茎のチェックをしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、パットの使用が減り、時間帯によっては布パンツに切り替えられるかなど常に排泄の自立支援について考え、皮膚トラブルの解消に向けた支援をしている。	排泄表で排泄状況を把握し、適時トイレへの誘導を行ないます。誘導時は小声で声掛けしプライバシーに配慮しています。夜間のみリハビリパンツを使用し、昼は布パンツで過ごし、失禁がない人もいます。排泄の自立支援と皮膚トラブルの解消に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝牛乳・オリゴを各入居者様に合わせて対応し、毎日、運動レクを取り入れ便秘予防の改善に努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人、一人の入浴に対する思いを理解しそれぞれの希望になるべく添えるように、又衛生面に入る順番や入浴回数を配慮した支援を行っている。	原則週2回入浴しています。一日3名の入浴として本人の思いを汲み取る機会にしています。手の届かない背中洗いと洗髪の介助はしていますが、出来る限り自分で行うようサポートしています。入浴を嫌がる人には、対応職員や時間帯変更で気持ちを変える機会をつくりながら促しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者の生活パターンに合わせ、その時の体調を配慮するように協力している。そのうえで休憩や安眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員すべてが理解と確認に努めており、服薬担当、見守り担当2人で対応、確実に飲み込み確認をし、体調観察し訪問診療に薬の効き具合、副作用症状の変化を医師に報告し、以後の診療投薬に反映している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩やレクエーションを楽しめるように工夫を行い毎日の生活の中での役割として家事を行って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気のいい日はドライブや散歩。 買い物レクには職員が一对一付き添いご自分で好きな品物を選んで頂いたりしています	天気の良い日は散歩や玄関先での日光浴を中心に行っています。車いすの人は、1対1で近場までの散歩に出ています。ドライブや買い物レクレーションは現在コロナ禍により中止していますが、玄関そばのイスに腰かけ会話をしながら外気浴をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物レクに行かれた時はホームのお金を使用し会計をして頂いています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居の時にご家族様に電話の連絡時間をお聞きしその時間までに入居者様が「電話をかけてほしい」と要望があった時はかけて安心して頂いています		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂く為にリビング壁に季節に於おじた飾りを入居者様と一緒に作り飾っています。椅子に座っている時間が長い時はソファに移動して頂きゆっくり休んで頂いています	リビングは明るく日当たりも良く、換気や温度、湿度、照明、清掃にも気を配り居心地の良い場所になるよう配慮しています。壁面には季節の作品を職員と一緒に作り飾っています。日中はリビングでレクリエーションや季節行事も行い、利用者が楽しめるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓の他、誰でも座れるソファを置き自由な空間作りを心がけている。又ご入居者同士、居室で談話し過ごされる事のあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の希望にてご家族と必要なものは用意して頂いたり、過ごしやすい環境になるように工夫をしている。	スプリングラー、エアコン、ベッド、布団、エアコンがあります。ダンス・テレビ・仏壇などの馴染みの物を家族と相談の上持ち込み、自分らしい環境としています。一週間に1度はリネン交換しています。清掃は毎日行い、本人の状態に応じて、職員と一緒に清掃しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者一人一人に出来る事・出来ない事等を認識し出来るだけご自分の事はご自分でして頂ける様に見守りや声掛けの工夫をしている。		

事業所名	グループホームあさひ別荘
ユニット名	かめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームとしての目標を定め、思いやりを持って実践に努めている。新人研修の中でも会社の理念・ホームの目標についての説明をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議や知り得た地域行事などへ積極的に参加すると共に、散歩時など挨拶や会話を通して地域の方々との交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症については内部研修等で勉強をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今現在は運営推進会議は書面開催でご家族様に書面で送り、意見や要望等を聞く機会を作りサービスの向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者とは、運営推進会議のほか、各種情報の入手につとめ講習会等へ参加することで協力関係を築きサービスの向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	内部研修にて身体拘束について職員に学ぶ機会を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、一般家庭同様 外部からは施錠されているが、内側からは誰でも開けられる状態となっている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について内部研修を行い、何気ない言葉や支援が虐待に繋がる可能性がある事を職員間で共有し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度についてユニット会議で内部研修を行い学べる機会を取り入れ各種研修会で得た日常生活自立支援事業を紹介し活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては本部にて時間をかけ説明している。契約前には、実際にホームでの実情を見学して頂き、不安や疑問等あった時も応対し納得して頂ける様に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所した際に、努めてホーム長を始め職員との会話の機会を作り意見や要望を得るようにしている。また、意見箱を設置し努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勤務形態、不安、要望等は管理者や代表にいつでも直接相談できる環境が出来ている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表も勤務表を確認しており、個々の労働形態（時間）に注意を払っている。管理者は、職員の生活背景等を考慮し、職員の希望を第一に勤務体制を整えている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一年間の研修計画を作成しそれに元ずき研修を行い、職員からの要望も取り入れ、ユニット会議時に内部研修を行い、技術面に於いては個別で指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の法人との交換研修に参加し交流をもちGHの行事などにも参加したり交流出来る機会を多く持てる様にし、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	基本情報を元に、サービスを開始する際に直接会話する機会を作り、要望に耳を傾け、職員同士情報を共有し安心して生活が送れる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスを開始する際、家族にこれまでの生活歴を伺い、家族の不安や要望に耳を傾け、良好な関係づくりが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応においては、安心安全を確保した上で、必要とされる最初の大切な支援を見極め、順を追って全体のサービスが行き渡るように努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は本人との日々の生活の中で信頼関係を築く事に重点を置き、その信頼関係の下で介護を行うように努力をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、本人の状態について家族と連絡を密にし、職員と共に本人を支える協力をしてもらっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	コロナ禍で行動の制限はあるが、家族や親戚とオンライン面会や友人との手紙交換などの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格に合わせリビング席を配置し本人同士が関わり合えるよう努めている。また、座ったままでも皆が参加出来る活動を提案し和気あいあいと過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設や病院などに移られた家族や相手先とも連絡を取り、その後の様子を伺い、必要に応じて支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の生活パターンを把握しながら支援している。職員は、本人の立場に立ち、ケアについて話し合い、必要に応じて家族に相談し、その都度対応を変えながら本人にあった対応が見つけられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様一人一人の生活歴を知り生活環境が変わっても戸惑う事なく日常生活が送れる様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の出来る事・出来ない事を把握し無理のない様に家事に参加して頂き、その人にあった一日の過ごし方を考えながら対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議やショートカンファを行い、各職員からの意見やアイデアをもとに本人の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に職員との会話や本人が話した内容等を記録し、職員同士情報の共有ができる様に努めている。又申し送りノートを使用し周知の徹底を心がけ何か気づきがあった時はケアマネに報告をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々変化する入居者の体調を把握しご家族との連携を密にしケアプランの変更を行い、早急な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問美容の利用や中学校の実習先として交流を深めたり消防員を加えた消防訓練を行ったりなど、入居者が安全に暮らせるように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医、外部受診を希望される場合には、訪問診療医と連携をとり本人にとって適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一回訪問看護がありそれまでに一週間分の訪問看護の用紙に入居者様の様子や経過を記入、訪問診療も月に二回あり看護と合わせて助言や指導をして頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様には、日頃から体調変化等があった場合は連絡を密にしホームとご家族様、医療機関と連絡を行い連携して対応している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時「看取りに関する同意書」を説明、重度化した時はホームとご家族様と詳しい説明を行い、新たに「看取りに関して」の同意書を作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網を作成、24時間ドクターコールあり、ドクターより指示を頂きその時の状態に於おじた対応をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を実施している。入居者様にも毎日避難訓練を兼ねて階段昇降をし下肢筋力低下につながらない様に工夫をしている。又避難訓練時は、地域の方の参加の声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報を含む書類は施錠し管理している。敬う気持ちを念頭に、一人一人の性格や思いに合った声掛けを行っている。浴室は個々に対応しており、その他の		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中でご本人が選択できることについては、声掛けを行い選択して頂き、又自己決定が行えるように声掛けの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホーム側から提案する日課以外にも、持参された植木の手入れや読書、模写、編み物等 本人が好きな時間に趣味活動が出来るよう、一人一人の気持ちを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容があり、希望者は髪染めもしています。毎朝の着替えについては、選べる方は自身で選んで頂き、洗顔後愛用の基礎化粧品等で整えられるよう支援している。介助が必要な方にも洗面後 保湿を行い、心地よく生活が送れるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が終了した後、口腔担当の職員が一人一人口腔内をチェックし仕上げ磨きや歯茎のチェックをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスについては、外部委託している栄養士のもと管理を行っている。また、体重や検査結果から医師より助言を頂き本人の身体に合った水分量や食事量を把握し支援しています。嗜好品については、家族に適切な量を持参して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事が終了した後、口腔担当の職員が一人一人口腔内をチェックし仕上げ磨きや歯茎のチェックをしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、パットの使用が減り、時間帯によっては布パンツに切り替えられるかなど常に排泄の自立支援について考え、皮膚トラブルの解消に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝牛乳・オリゴを各入居者に合わせて対応し、毎日、運動レクを取り入れ便秘予防の改善に努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人、一人の入浴に対する思いを理解しそれぞれの希望になるべく添えるように、又衛生面に入る順番や入浴回数を配慮した支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者の生活パターンに合わせ、その時の体調を配慮するように協力している。そのうえで休憩や安眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員すべてが理解と確認に努めており、服薬担当、見守り担当2人で対応、確実に飲み込み確認をし、体調観察し訪問診療に薬の効き具合、副作用症状の変化を医師に報告し、以後の診療投薬に反映している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩やレクエーションを楽しめるように工夫を行い毎日の生活の中での役割として家事を行って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気のいい日はドライブや散歩。 買い物レクには職員が一对一付き添いご自分で好きな品物を選んで頂いたりしています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物レクに行かれた時はホームのお金を使用し会計をして頂いています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居の時にご家族様に電話の連絡時間をお聞きしその時間までに入居者様が「電話をかけてほしい」と要望があった時はかけて安心して頂いています		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂く為にリビング壁に季節に於おじた飾りを入居者様と一緒に作り飾っています。椅子に座っている時間が長い時はソファに移動して頂きゆっくり休んで頂いています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓の他、誰でも座れるソファを置き自由な空間作りを心がけている。又ご入居者同士、居室で談話し過ごされる事のあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の希望にてご家族と必要なものは用意して頂いたり、過ごしやすい環境になるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご入居者一人一人に出来る事・出来ない事等を認識し出来るだけご自分の事はご自分でして頂ける様に見守りや声掛けの工夫をしている。		

2021年度

事業所名

作成日： 令和4年5月7日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者様の声掛けの時に大きな声や自尊心に配慮がないときが見られる。	声掛けをするときは耳元で話せるように意識していく	職員が疑似体験をしどう感じるのか、又言われたら自尊心がどう傷つくかを体験する	12ヶ月
2		職員の年齢差や仕事の把握を中々覚えることが出来ず他の職員に負担が多くなりチームワークが難しい時がある	職員が気持ちよく勤務が出来るようにしていく	それぞれの職員の力量を把握し個別に指導や技術面等も教えていく	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月